

令和 4 年度 県立並木中等教育学校自己評価表

目指す学校像	1 体験・経験を重視した学習活動を通して広く人間教育を行う学校 2 筑波研究学園都市の一角に位置するという地域性を生かし、大学、研究機関、保護者、卒業生と連携して科学教育を行う学校 3 外国からの研究者・留学生、インターナショナルスクールとの交流や海外語学研修などを通して、国際教育を行う学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
令和 4 年度は開校 1 5 年目となり、「Be a top learner！」を校是に掲げ、次代の日本・世界の発展を担う「人間力」を備えたグローバル・リーダーを育成するために、「より高い教育水準・より豊かな教育活動」をめざした教育活動を行った。中高一貫教育の利点を生かし、系統的なカリキュラムを構築し、「アクティブ・ラーニング」を積極的に取り入れた授業実践により、生徒が学習活動の中で、考えを表現しあったり、納得解を求めて議論したりすることが増えている。その結果、生徒の発達段階に応じた「論理力」や「表現力」の高まりが見られた。 SSH 指定第 3 期の柱となる理数探究のカリキュラムが充実し、生徒が学びを深める場が授業の中に設けられている。また、サイエンスカフェをはじめとする外部からの講師を招いた課外活動についても、生徒の関心を掻き立てている。これらの場の提供が、生徒の学びに向かう姿勢を改善していることは疑いのないところであ	1 新時代に対応した学習の見直し	○協働的な学びを取り入れた授業を実施する。 ・イノベーションを強化するための弁証法的対話を授業に導入する。 ・新学習指導要領に即した観点別評価の在り方を確立する。 ○基礎基本を活用し、思考・判断・表現を重視した学習を展開する。	A
	2 志高く、進路実現に向かう生徒の育成	○体験活動を充実し、6 年間を見通した体系的なキャリア教育を展開する。 ○生徒が自らの可能性に挑戦する進学指導を実践する。 ○キャリアカウンセリングを実施し、生徒の意思を汲んだ相談を実施する。	A
	3 SSH事業第 3 期目の始動	○学校設定科目「課題探究・理数探究」を中心としたカリキュラム開発を行う。 ○地域、研究所、保護者、卒業生と連携した探究力・論理力の育成を図る。	A
	4 6 年間を見通した校内体制の確立	○6 年間の教育活動の体系化を図り、内容を精選する。 ○カリキュラム・マネジメントにより教育活動を精選し、校内体制を確立する。 ○医学コースカリキュラムの検証を行うとともに課題をまとめる。	A
	5 業務内容の見直し	○すべての教職員の超過勤務時間を 1 箇月 4 5 時間 年間 3 6 0 時間以内とする。 ○業務の精選を図ると共に会議の持ち方を工夫する。	A

別紙様式 2（中等）

る。科学分野をはじめとする各種コンクール等において優秀な成績を上げる生徒がでたことも、その成果の一部であると考える。 中等教育学校の特性をさらに生かすためのカリキュラム・マネジメントを行い、「学びのロードマップ」作りに取り組んだ。今年度は「学びのロードマップ」を各教科・領域等で大いに活用し、「確かな学力」の育成に向けた授業改善に努めたい。また、SSH 事業第 4 期に向けて、学校設定科目「課題探究」を中核とした「探究力・論理力」のさらなる育成を図っていききたい。 また、令和 2 年度から「医学コース」を開設し、多様なプログラムを編成することにより、医師として必要な資質・能力と高い学力の育成を図ることに努めていききたい。さらに、人間教育の充実についても、課題として留意していききたい事項である。生徒の人権を大切にしたい丁寧な指導を心がけていききたい。			
三つの方針		具体的目標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	協働と連携を通して磨いた探究的・創造力を生かし、次代を牽引するグローバル・リーダーの育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	中高一貫校の蓄積と実績を基に、難関大学や医学部等、多様な志望に対応できる、多彩なカリキュラムを通した進路実現	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	様々な分野に関心をもって他者と関わる中で、自分の見識をより広げ深めていこうとする探究心・向学心のある生徒	

別紙様式 2 (中等)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
1 校務運営部 (教務)	SSH 3 期目の目標を達成するための方策を実施しながら、次期学習指導要領を念頭に置いた教育課程編成、授業時間の確保と行事の調整を行い、円滑な学校運営に努める。	SSH 関連の講演会等を総合的な学習の時間に位置づける等、年間を見通した計画的な授業時間確保を行うため、学校行事や年次行事の調整を行う。	A	A	SSH の役割として求められる授業や行事を実施できるように考慮することができた。
		「課題探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業を効果的に実施するため、行事・日課等の計画や調整を行う。	A		「課題探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業を効果的に実施するための行事・日課等の調整を行うことができた。
		SSH 3 期の目的達成と 4 期を目指し、学校定科目の新設・改良を含んだ教育課程全般を見直し、学校としての方針を明確化できる体系的なカリキュラムを作成する。	A		新課程でのカリキュラムに関しても、工夫をすることができた。
	行事の精選と授業時間の確保に努め、生徒の可能性を引き出す質の高い授業を展開できる学習環境・システムを整備する。	現行の A 週 B 週 C 日課システムの利点を最大限に活かせるような、計画的運用によって授業時間の偏りを減し、バランスのとれた学習進度を維持できるよう、曜日変更や行事の調整を行う。	B		今年度は計画的な授業運用を行ううえで、コロナや入試業務による日程変更が。授業時間の偏りを生んでしまった。
		各教科・年次からの要望も取り入れ、定期・実力テストのあり方を検討する。授業で培った力がテストによってより正しく効果的に評価できるよう、テストのあり方や内容を十分検討していく。	A		定期テストの日程の変更など、柔軟な対応ができた。評価の方法についても検討を重ね、内規の改正を行うことができた。
	カリキュラム・マネジメントにより、アクティブラーナーを育成するための 6 年間を見通した校内体制の充実を図る。	観点別学習状況評価について理解を深め、生徒個々の学習方法のチェックに還元できる評価方法を研究する。	A		観点別学習状況評価が大きく変化するなか、評価方法の周知と教科における評価方法の検討を進めることができた。
		保護者や地域に対するアンケートを実施し、学校外からの意見も取り入れていく。	B		アンケートの実施時期を早くしたほうが良い。
		医学コースの円滑な運営に努める。	A		医学コースの運営は軌道に乗ってきている。
	教職員の意識改革を図るとともに、一人ひとりの業務内容を見直し、「働き方改革」を推進することにより、教育水準の維持向上を図る。	「働き方改革」を推進し、教育水準の維持向上を図るうえでも、行事の精選を行ない、業務内容を削減する。	A		「働き方改革」を意識したうえでの行事の精選と効率化を図ることができた。
		それぞれの校務分掌や年次において、通年で行ってきた業務を検証し、業務の効率化を図る。	A		「働き方改革」を意識したうえでの業務を検証し、業務の効率化を図ることができた。

別紙様式 2 (中等)

(総務)	本校の目指す生徒像及び教育活動の活性化を念頭に置いた選抜を行う。	入学者選抜内規を検討する。	A	A	入試内規の変更にも対応することができた。
		効率的かつ正確な入試事務処理が行えるよう運営計画の工夫改善を図る。学校委員会担当者の負担軽減と業務の細分化を図る。	A		大きな入試採点に関する変更点があったが、先生方のご協力もあり、対応することができた。
	多様な手段により、本校教育活動についての広報活動をより一層充実させる。	生徒が主体となり生徒目線での学校説明会を企画する。日頃のアクティブ・ラーニングの実践や研究を生かした学校公開等の企画・立案を検討する。	A		アクティブ・ラーニングの実践や研究を生かした学校公開等を実施できた。
		生徒の躍動感をアピールする学校案内パンフレットやリーフレットを作成する。	A		生徒たちの活動を学校パンフレットやリーフレット、ホームページ等で積極的に伝えることができた。
		直感的でわかりやすいHPの構成やデザインを検討するとともに、本校の教育活動を外部に発信するツールとして積極的にHP（並木ブログ）の更新を図っていく。	A		特に並木ブログは更新頻度も高く、情報公開に大きな役割を果たした。
	儀式的行事を円滑に運営する。	始業式、終業式、入学式、卒業証書授与式、修了式等の企画・運営を円滑に行う。	A		コロナ禍のなかでの行事のあり方を考え、適切に実施することができた。
		校内の放送機器等の整備拡充を行う。	B		機器が老朽化してきたため、次年度以降の更新を考えたい。
(渉外)	渉外活動の充実と会員同士の親睦を図る。	P T A総会、本部役員会及び合同役員会を企画・運営する。	A	A	支部会廃止後の引き継ぎを始め、滞りなく活動を実施することが出来た。
		県高P連及び県西高P連との連携・協力を図る。	A		例年と同様に連携・協力を図ることが出来た。
		年次委員会、広報委員会、研修委員会、生徒指導委員会、支部会を開催する。	B		委員会活動は活発に行うことが出来たが、支部会に代わる代替行事は模索中である。
		かえで祭（文化祭）、ウォークラリー等の学校行事へ、コロナ禍のなかでできる参加協力を考える。	A		リモートを活用するなど工夫して行うことが出来た。

別紙様式 2 (中等)

2 企画研究部	6年間を見通した「課題探究」の指導体制の確立を図る。	生徒一人一人の課題探究の充実、及び指導する教員の指導力の向上を図り、年間を通して「課題探究」の授業の充実を図り、6年間を見通した「課題探究」の指導体制の確立を図る。	A		総合的な探究の時間との接続を模索する。
	S S H事業第3期目の推進及び第4期の研究開発課題の先行実施を図る。	中高一貫教育を活かした探究力・論理力を育成するカリキュラムの開発と教材・指導法の実践的研究の充実を図る。また、理数系グローバル・リーダーの育成に向けて、つくば市の研究機関との連携を強化し、S T E A M教育の推進を図る。	A		「理数探究 卒業生メンター制度」の制度設計を行う。
	ユネスコスクールとして国際教育の充実と各種海外研修の充実を図る。	ユネスコスクールとして日々の授業や様々な国際的な体験を通じ次代の日本・世界の発展を担う「人間力」を備えたグローバル・リーダー育成を図る。	A		各授業での発表活動や国際理解を促進するために各行事、活動、講演会等を実施し、生徒自身が発信力や受信力、問題解決力を伸ばす支援をすることができた。
(探究)	課題探究の運営方法・普及・評価を改善し、発展を図る。前期課程ミニ課題探究の運営方法の系統化を図る。	①新設したSDG sゼミの活動を充実させる	A	A	生徒有志活動との連携を行う。
		②他校に課題探究のシステムを普及する	A		他校の視察を積極的に受け入れる。
		③課題探究の評価を開発する	A		評価ルーブリックを作成する。
		④前期課程ミニ課題探究のカリキュラム開発を行う。ミニ課題探究の運営方法を系統化し、6年間の一貫した課題探究指導体制を確立する。	A		前期ミニ課題探究との連絡を密にする。
(S S H)	S S H第3期の研究開発課題に対する取組についてまとめ、評価を行うとともに、4期目に向けた準備を行う。	① 探究力・論理力を育成するカリキュラム開発を行う。(理数探究基礎、理数探究、論理国語、S S 理科科目、数理科学A・Bなど)	A	A	数理科学A・Bの充実を図る。
		② 地域連携、高大連携による探究力、論理力育成システムを構築する。(つくばサイエンスフロント、社会問題ミーティング、C S トレーニング)	A		さらに講座の回数を増やす。
		③ 科学技術系人材育成を図る。(科学研究部、科学の甲子園およびジュニア、科学オリンピックの活動支援)	A		科学オリンピックの入賞者を育成する。
		④ HP 作成等を通して、本校のSSH活動について情報を発信する。	A		探究に関する動画を掲載する。
		⑤ 探究力や論理力、その他事業に関する分析・評価を行う。	B		評価ルーブリックを作成する。
		⑥ 4期目に向けた計画づくりを行う。	B		中間評価に向けて分析を行う。

別紙様式 2 (中等)

(SGS)	国際教育・国際交流など特色ある学校づくりの取り組みユネスコスクールとしてESD教育への積極的な取組と普及長期留学制度の持続可能な制度構築と様々な留学事業の機会の提供コロナ下でのグローバル・リーダー養成のための取り組み	① SSH事業とリンクをさせた国際教育を充実させる。例：英語科と他教科のクロスカリキュラム実施やICT活用、アクティブ・ラーニング等	B	A	理系グローバルリーダー育成のためのプログラムを充実させる。理系生徒が関心を持てるイベントの企画を行う。
		② キャリア教育の視点や、外部機関との連携を踏まえて、各年次に最もふさわしい国際教育に関わる行事を選択し、当該年次に提示する。	B		外部機関との国際教育活動ができる学年単位のイベントのさらなる充実を図る。
		③ ニュージーランド短期語学研修はじめ、NZ や他国の長期留学から帰国してくる本校生徒がもたらすグローバルな経験を本校生徒とシェアできる機会を設ける。	A		各国への留学から帰国する生徒に様々な行事において活躍の機会を与え、本校生の国際感覚を向上させる。
		④ コロナで海外渡航困難な状況下でもグローバル・リーダー育成のための国際交流活動をSSH事業と絡めて企画、実施する。	A		国内や本校にいながら実現できる国際交流行事の幅を、県や市、独自の企画で広げていく。
3 学校生活部 (生徒指導部)	基本的生活習慣を育成し、他人との協調性を養い、自己実現を目指す。	全職員の共通理解と指導を徹底する。	A	A	研修や職員会議を通じて円滑に取り組めるよう協力体制を構築した
		自主的に「挨拶をする・装を正す・時間を守る」が出来るよう努める。	A		SHRや学級活動、マナーアップ運動を通してブラッシュアップを図ることができた
		マナーアップ活動を通して、校則を遵守する態度の育成を目指す。	A		委員会やPTAや警察との連携を図ってマナーアップ活動を行った。
	保護者・関係諸機関との連携を密にし、問題行動の未然防止を目指す。	保護者との連携・協力を密にする。	A		面談や電話連絡、出欠席の確認で生徒の情報共有や定期的に連絡交換できた
		各中学校・警察等の関係諸機関との連携・協力を図る。	A		講座やマナーアップ活動、登校状況確認等において連絡を密にできた
		生徒事故の未然防止に努める。	B		公共機関の利用状況確認、マナーアップキャンペーン等を通してできた
	安全教育の推進を図り、自己防衛意識・自己管理の育成を目指す。	登下校時の立哨指導・巡回指導を計画的に実施する。	A		教職員で立哨を行い、行事後の巡視等を計画的に実施した
		交通安全教育の徹底を図る。	A		リーフレットの配付、掲示等を通して意識を高めることができた。
		定期的に自転車点検を実施する。	B		自転車通学許可書の提出ごとに点検を促し、長期有価の前に呼びかけた

別紙様式 2 (中等)

(教育相談)	心の問題を抱えている生徒の 早期発見と早期対応を図る。	年次と情報を共有し、休みがちな生徒に対して、チーム支援の充実を図る。	A	A	保健室との連携、年次主任会議などを通 して早期発見を図る。早期対応の一つ として SC の活用を勧め、チーム支援 の体制をとれるようにする。
		校内研修会を実施し、不登校マニュアルや相談室便りを発行する。	B		
	年次・保護者との連携強化を図 る。	生徒へのアプローチについて教育相談的視点からのアドバイスをする。	A		保護者からの相談をしっかりと受け止め、 共感的理解につとめる。SC へ繋いだり、 SC の助言を元に医療機関を紹介してい く。
		保護者との連携を密にする。また場合によっては医療機関等の紹介をする。	A		
	スクールカウンセラー (SC) の積極的活用を図る。	カウンセリングを受ける生徒に対して、学校生活の中で支援を図る。	A		カウンセリング事前の情報収集、事後の 情報と対応の共有を今後も丁寧に行 う。
		カウンセリングにおいて、SC と年次・担任等の間の連絡調整を支援する。	A		
(保健安全)	生徒の健康・安全・健康教育の 推進に努める。	健康診断は校医と相談し、合理的且つ円滑に行い、要治療者については早期治療を 徹底する。	A	A	感染防止の手立てを行った上で、健 康診断、保健管理等を適切に実施す る。
		日常的な保健室利用生徒について、年次・担任・保護者との緊密な連携を図る。	A		保健室登校の生徒について、年次・ 担任・保護者・医療機関・SC と連携 しながら生徒を支援していく。
	校舎内外の美化と安全を図る。	年次縦割りの清掃班による清掃活動の充実化を図る。	B		学校行事の急な変更で清掃がなくな ったり、給油ができなくなったりし た。事前に知らせてほしい。
		ワックスがけおよび清掃強化週間を実施し、校内の美化に努める。	A		清掃できない日が続くのは避けた い。特に外部に向けた行事の前の清 掃は徹底したい。
		危険箇所の点検を行ない、改善・修繕に努力する。	A		修繕箇所は速やかに修理してもら えた。
		災害時等の対応マニュアルの見直しを行い、全職員に周知徹底する。	A		複数で検討し、保管場所も周知して いる。
		避難訓練を年 2 回実施する。訓練に際しては、地域との連携を図る。	A		今年度は並木中学校主催の Z o o m による防災講話があった。次年度も 実施してほしい。
(食育)	正しい食事のあり方や望まし い食習慣を身につけ、食に感謝 し、楽しく食事ができるように	全職員の共通理解のもと、安全と食育指導上、適切な指示をしながら給食指導を行 う。	B	B	食育推進体制を見直し、全員で取り 組む体制を整備していきたい
		給食係や給食委員会による常時活動の活性化を図り、給食の円滑な配膳や片付けを	A		毎日の活動をしっかりと行い、円滑な 活動に取り組むことができた

別紙様式 2 (中等)

	する。	行えるようにする。			
		職員も教室で生徒とともに一緒に給食を食べながら、適宜、食事のマナーの指導、栄養や食文化の理解、望ましい人間関係の育成を図る。	A		年次職員ができるだけ教室に入り、生徒と一緒に給食を食べ、給食指導を適時行った。
4 特別活動部	部活動の活発化を図る。	中等前期・後期課程の生徒を含めた中高 6 年間一貫の活動方法を、前年度に引き続き模索する。	A	A	前期課程、後期課程での合同練習を実施している部活動もあり、ルールや場所の問題が障壁になっている。
		部活動における質の高い活動を推進し、個の育成と集団のレベルアップを図る。	A		部活動改革により、数多くの制限がある中で、効率的な活動方法を考えていきたい。
		部顧問の適切な配置、部活の数の適正化を図り、学校全体としての指導体制をより充実させる。	B		前期・後期、及び主顧問と副顧問の連携を充実させ、より良い指導体制を築いていく。
	主体性のある生徒会活動を推進する。	生徒会役員が、主体性を持って生徒会活動を進められるようにする。	A		コロナ禍において、どのような活動ができるか、一般生徒からの意見も取りまとめながら、生徒会中心に話し合いを進めていく。
		中等前期・後期課程の生徒を含めた生徒会活動のあり方を、前年度に引き続き模索する。	B		縦割りの生徒会活動を充実させるための方策を模索する。
		生徒会役員選挙に多くの候補者が立候補するよう生徒の意識を高揚させる。	A		各年次担任にも協力を要請し、意識の高揚を図る。
	学校行事の活性化を図る。	かえで祭の実行委員を適正数にし、コロナ禍でも生徒による質の高い企画・運営力の向上を目指す。	A		コロナ禍において、各部署において工夫を図りながら実施、成功させることができ、今後も実施方法を模索していく。
		前期・後期課程の生徒が一体化したかえで祭を作り出す。	A		各年次の特色を活かしながら、より一層、充実したかえで祭を作り上げていく。
		前期・後期課程の生徒が主体的に企画運営し、スポーツデイを成功に導く。	A		生徒主体で、運営・実施できるように今年度の反省をいかしながら、来年度の計画を立てていく。
		WRの実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上をめざす。	B		コロナ禍での 2 日間実施や、道路事情を考えながらのコース変更等、生

別紙様式 2 (中等)

	ウォークラリー (WR) を通した心身の健全な育成と集団意識の高揚を図る。	体育授業での歩行練習で規範意識や生徒の体力の増進に努める。	A		徒の安全意識を向上させる。
		生徒自ら集団歩行・行動の大切さを身につけ、お互い協力して歩行できるよう促す。	A		WR 本番の天候や歩行の安全を考えた歩行練習と体力の向上に努める。
		上級生から下級生まで全校生徒が一つになり行事の成功に向かうよう働きかける。	A		お互いに注意し合えるような、安全意識と規範意識の高揚を図る。
		学級活動や部活動等で人間関係を養う能力を形成する力を目指す	A		全校生徒の規範意識を引き締め、安全で一体感の WR を作り上げて、成功に導かせる。
	キャリアパスポート事業として、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力等を高める。	委員会活動や実行委員会活動等でさまざまな課題を発見分析し、適切な計画を立ててその課題を処理解決することができる能力を身につけさせる	B		人間関係を養う能力を形成する。
					適切な計画、さらに解決能力を身につけさせる。
5 学習進路部 (進路指導)	6 年間を見通したキャリア教育を促進し、生徒が可能性に挑戦する進学指導を实践する。	年次に合わせた進路行事の体験を通して職業観や進路意識を高める。	B	A	コロナ禍での制約の中で工夫して実施する必要がある。職業体験として実施したクエストエデュケーションは本校生の特性に合っている。
		進路だより・進学要覧を作成し、ガイダンスとあわせて、生徒への啓発と保護者への情報提供を拡充する。	A		質の高い情報提供を継続したい。
		個人面談の充実により生徒に高い志と進路目標を持たせ、学習時間の向上を図る。後期課程では土曜学習会を実施する。	A		土曜学習会における教員待遇を改善した。実施について検討を重ねた。
		模試学力分析会・進路研修会・学習状況調査により生徒情報を共有し、面談力の向上を図る。	A		教員の研修の充実を継続する。
	(授業研究)	毎月の授業参観 (ちょっと見週間) を実施する。クロスカリキュラム授業、ICT 活用授業、T0 授業をとりいれた授業公開を実施する。	B		授業の並木 3days を実施し、授業公開や研修を充実させた。公開や研修することへの負担感を減らす方法を検討したい。
		教師向け研修会・外部教員研修参加の促進により学習指導力の向上を目指す。	A		コロナ禍で研究会開催方法が変化し、オンライン中心になったことを利便性が高くなったと捉え、今後も

別紙様式 2 (中等)

					参加を促していきたい。
(学習環境)	学習環境を整備する。	ブライツホールの整備を進め、利用を促進する。	A		平日夜の教員待遇改善が急務。利用者増加策の継続・促進。開館日増加に伴う保護者負担金の値上げが急務。
		進路指導室の整備を進め、利用を促進する。	A		現在のレベルを維持したいが、ブライツホール同様、平日夜の教員待遇改善が困難。
		赤本の充実を図る。	A		利用者も多いため、予算の続く限り現在のレベルを維持したい。
(図書館運営)	図書館運営を充実させる。	図書の実を回り、図書室利用を促進する。	B		主に前期生の利用が中心だが、開館を維持するのが困難なため、開館時間を縮小した。
6 PCシステム	IT 機器を整備する。(特にハード面)	教室、特別教室等の PC リース更新 (2021) をスムーズに行う。	A	A	端末の故障への準備と対応。リースされる PC 室のパソコン管理と使用方法について検討。
		ネットワークの整備を計画する。今年度は PC 室・ブライツホールについても、無線のネットワーク敷設を検討する。	B		ブライツホールの無線環境の整備については事務室との相談が必要。
		GIGA スクール構想の円滑な実現に向け、校内環境を整備する。	A		増えるであろう GIGA 端末の故障への対応とさらなる効果的な活用のための研修が必要。
	充実したホームページを再構築する。	年数を重ねて、無計画に肥大したホームページの構成を見直す。管理職、広報担当の教職員と内容や構成について検討し、どの情報を誰が知りたいのかを整理する。	B		HP が利用者に見やすく、効果的な PR になるよう管理職や各担当と相談。
7 学校事務	教育環境及び生徒の学校生活環境を充実する。	授業研究が円滑に行われる様、必要な設備・備品を整える。	B	A	燃料費高騰に伴い予算の組み替えが必要になることが予想されるが、できるところから経費の削減を行い、事業に支障が出ることないよう対応したい。
		生徒が安全安心して学校生活を送るため、授業等の実施状況と調整しながら適切に環境美化を含めた学校施設の整備に努める。特に施設の老朽化により不具合ある施設設備については、早急に対応する。	A		施設設備の老朽化が進んでいるが、状況に応じて規定予算で対応していく。また、必要に応じて関係各課と協議し教育活動に支障が出ないよう

別紙様式 2 (中等)

					対応する。
8 1 年次	学習習慣を確立し、主体的に学習に取り組む生徒を育成する。	「わかる授業」を心がけ、授業や課題を通し、基礎・基本の定着を図るとともに、生徒が主体的に学ぶことができるように、「学び方」についての学習指導を行う。	A	A	学習に主体的に取り組むことができる。見通しをもって学ぶことができるよう、単元全体を見通した上で学習課題の質を上げていきたい。
		フォーサイトの活用を通し、見通しをもって自主的に学習に取り組む態度を育成すると共に担任・年次主任による面談を定期的に行い、個に応じた助言や支援を行う。	A		フォーサイトの活用や面談、4 年次生との TO 学習などを通して、学習・生活習慣の確立に向けて個に応じた助言や支援を行うことができた。
	礼儀正しく、他者と協働することができる生徒を育成する。	学級活動や道徳の授業の他、日常生活を通して、礼儀正しく生活する態度と互いの人権を尊重する態度を育てる。	A		「RESPECT 月間」を設けて啓発活動を行うなど、互いの人権を大切にして生活することを意識づけてきた。次年度も継続していきたい。
		きちんとした返事やあいさつができ、お互いに声をかけ活動できるような集団づくりを心がける生活指導を行う。	B		あいさつや返事と言った礼儀や基本的な生活習慣をしっかりと身につけられるよう、次年度も継続して指導していきたい。
	主体的に考え、判断し、行動することができる生徒を育成する。	各活動を計画的に実施するとともに活動方法についての助言し、学習・学級活動・学校行事を生徒主体で行うことができるようにする。	A		宿泊や集会などの年次行事を生徒主体で行うことができた。また、ふり返りを大切にし、諸課題を年次経営や学級経営に生かすことができた。
		各学習活動で探究学習を実施し、自分で問いを立て、考え、多角的にものごとを見る視野をもち、納得解を出せるように支援する。	A		テーマ設定能力の育成をテーマとし、「教育と探求社」の教材を活用して“問づくり”を計画的に位置づけて学習を行った。次年度は、他教科との関連を図っていきたい。
9 2 年次	各個の実態を見極め、「基礎からの発展」と「基礎の補強」に対応する、柔軟な学習指導を充実する。	学習意欲を継続するための授業展開の工夫に努めると共に、学習意欲の減退した生徒に対する具体的で連携的な指導を実施する。	B	A	基礎期から充実期にかけて、個に対応した学習支援に努める。
		自身の進路の枠組みや方向性を意識し、夢をもって生活するための生きたキャリア教育を推進する。	A		自己実現に向けて、より具体的な進路や特色ある進路について理解を深めていきたい。

別紙様式 2 (中等)

	道徳的な価値観を育成し、集団生活や礼儀作法について自ら考え、行動することのできる指導・カリキュラムを充実する。	時と場にふさわしい言動をとることができるように、よりよい人間関係を構築すると共に、基本的生活習慣の確立に努める。	A		TPOにふさわしい言動と友達に対する適切な声かけができるように指導していく。
		道徳の時間を通して、集団生活の在り方の思考と自己受容する力の育成を計画的に実施する。	A		ロールプレイングや他者の気持ちを理解する活動を増やし、自他ともに受容する力を身につけさせたい。
	これまでの経験を生かして後輩を先達し、行事や学校生活に目的と責任をもって取り組む、心身共にたくましい生徒を育成する。	自ら計画性をもって諸活動に自主的に取り組むことのできる生徒の育成に努める。	A		学習や生活を常に振り返り、自らの計画を調整できるようにする。
		教育相談の充実に努め、定期的な面談・懇談に加えて日々の雑談も大切にして、学校生活へのエネルギーを一人一人が蓄積できるようにする。	A		生徒一人一人の会話や悩みを職員間でも共有することで、学校全体で生徒に寄り添っていききたい。
10 3 年次	自ら課題を見つけ解決する能力をもった生徒を育成する。	AL を通して、自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりする場面を多く設定し、自ら考え積極的に活動できる授業を行う。	A	A	引き続き、授業において対話的な学びを通じて考えを深める機会を多く設けていく。
		総合的な学習の時間や年次行事において、ICT を積極的に活用したり、効果的活用を工夫したりして、生徒の思考力・判断力・表現力等の能力を育てる。	A		個人所有のタブレットを有効活用することで、学校と家庭でシームレスに学べるような環境を作る。
	社会貢献できる生徒を育成する。	進路指導、大学見学、広島京都平和研修(震災研修)、講演会などの体験活動を充実させ、4 年後を見通した発達段階にあったキャリア教育を展開する。	A		様々な機会を通じて、3 年後の進路選択を自分事として捉えられるように意識付けする。
		様々な活動に実行委員を立ち上げ、生徒企画・運営の活動を多くすることで、人の役に立つ経験をさせ、主体性、計画性、実践力を育てる。	A		古典的リーダーシップを脱却し、権限によらないリーダーシップのあり方について考えさせる。
	前期課程最高年次として、他の年次の模範となる生徒を育成する。	元気な挨拶ができるように日頃から指導を行う。さらに学校のルールや、公共のマナーなどに対する意識を高める声かけを行い、実践・振り返りをする活動を取り入れる。	B		挨拶については継続的な取り組みによって、生徒個々の意識を高めていく。後期生として、前期生の模範となる振る舞いを身につけさせる。
		計画性への意識を高め、実践できる生徒を育成するために、フォーサイト手帳を有効活用する方法を指導し、支援を行う。	B		個々の学習の記録についてはデジタルツールの使用を継続し、生徒・教師とも無理なく続けていけるような方法を模索する。

別紙様式 2 (中等)

	仲間と切磋琢磨でき、自立した生徒の育成	AL 授業や道徳、学活の充実を図り、仲間がいるからこそ得られる新たな考え方や視野を広げ、自分を成長させてくれる仲間への感謝の気持ちをもてる生徒を育成する。	A		中等教育学校の強みを生かし、仲間との関係を大切にできるよう、他者に共感する力を身につけさせる。
		前期課程最高年次として、部活動の中心的な立場としての意識を高めさせる。積極的な参加を促し、自立した生徒を育成する。	A		後期生としての自覚を持たせ、自らの向上とともに、後輩への適切な支援を促す。
11 4 年次	基本的生活習慣を育成する。	挨拶を励行し、服装指導、清掃指導を徹底する。	B	A	挨拶の励行をさらに指導していく。
		基本的生活習慣を身につけさせ、遅刻をさせないとともに、状況判断力を養う。	A		遅刻指導、服装指導を継続して行う。
		長欠生徒に、年次教員全体で善後策を講じ、問題解決に努める。	A		引き続き、情報共有と問題の早期発見に努める。
		道徳の授業を年次職員が協力して行うことで、心の成長を促す。	A		引き続き、生徒自身の前に進む力を育んでいく。
		P C を活用し、情報の共有を図り、自律すると同時に利他的に行動できる生徒を育成する。	A		一人一台の端末使用を生かした授業展開を研究する。
	自律した人格の育成と学習の習慣化および基礎学力の育成を図る。	5・6 年次の取り組みを参考にし、大学共通テストへの対応を念頭に、思考力・記述力を高める授業スタイルを積極的に取り入れ、応用・発展へと広がりのある授業を展開する。	B		教科の枠を超えての横断的な取組が継続して必要。
		授業や週末課題を通して高い目標に結びつけられるような学習課題を与え、課題に対して自ら考え抜いて取り組む力を育成する	B		課題をこなせない生徒への指導を継続して行。課題の総量についても年次で調整していく。
		朝の小テスト、週末課題、模試等の実施による学習の習慣化および学力向上を図る。	A		与えられたことをこなすだけでなく自ら行動する力を継続して養う。
		学習過程の蓄積、学習時間の記録や保護者との情報の共有に ICT を活用し、集団としての学力向上を図る。	B		オンライン授業を通し、ICT をより有効的に活用し、授業以外の活動にも有効に生かしていきたい。
		進路講演会、大学見学会、卒業生との学習相談会等により、自己理解と進路意識の向上を図る。	A		来年度も OBOG 等、人的資源を最大限活用していく。

別紙様式 2 (中等)

	自己理解と進路意識の高揚を図る。	大学見学会等で適宜情報を与え、文理選択や難関大学への進学を早期に意識させる。また、LHR、総合的な学習の時間等を活用して、生徒全体かつ個々に対して進学に関するアドバイスや情報提供に努める。	A		引き続き、進路意識の向上を図っていく。
		進路情報誌を活用して進路への興味関心を高め、自ら情報を収集する生徒を育成する。	B		教室に置くだけでなく使い方の指導も行っていく。
12 5 年次	基本的生活習慣を育成する。	挨拶を励行し、服装指導、清掃指導を徹底する。	A	A	担任による丁寧な指導ができ、大きな声で挨拶ができた。
		基本的生活習慣を身につけさせ、遅刻をさせないとともに、話をしっかりと聞く態度を養う。	A		落ち着いてよく話を聞いている。 毎回同じ生徒が遅刻している
		生徒との面談を定期的を実施し、生徒理解や生徒の心の悩みを把握する。	B		クラスの担当を問わず、どの教員もどの生徒に対しても丁寧に行っているが、より生徒に届くような働きかけ方の工夫が必要である。
		ICT を活用し、情報の共有を図ることで、自主的・利他的に行動できる生徒を育成し、志の高い集団形成を図る。	B		生徒が全員同じ機器を持っているわけではなく、授業の特性によって使用頻度に差がある。
	学習習慣と基礎学力を育成する。	大学共通テストへの対応を念頭に、思考力を高める授業スタイルを積極的に導入し、応用・発展へと広がりのある授業を展開する。また、効果的に課外を実施し、国公立大学の二次試験に対応できる論理性・表現力を育成する。	B		授業研究中である。さらに、生徒個々が自走する工夫が必要である。
		朝の小テスト、週末課題、模試等の実施による学習の習慣化および学力向上を図る。	A		行える限りの取組みはしたが、「受けさせられている」という生徒の意識の変容を期待する。
		学習時間の記録や保護者との情報の共有に ICT を活用し、集団としての学力向上を図る。	A		生徒が使い方を自分で管理できるようになってきている。
	異文化理解と自己理解について考察を深める生徒を育成する。	修学旅行と語学研修を通して、異文化理解を進め、異文化から自国の文化を再確認する。また、自分から異文化に対して発信する力を養う。	A		やれることが限られた状況の中で工夫して取り組むことができた。
		最終年次に向けて、大学模擬授業や進路講演会をととして自己理解を深め、進路意	A		大学に見学に出向くことは難しい中で、卒業生を招くなど工夫した取組

別紙様式 2 (中等)

		識の向上を図る。			ができた。
13 6 年次	規律と活力ある基本的生活習慣・学習習慣を育成する。	服装・挨拶・清掃・遅刻指導を徹底することで、基本的な生活習慣や社会力を育成する。	B	A	概ね良い状況だったが、最後まで同じ生徒たちが指導の対象として残った。
		わかりやすい授業を展開し、授業を大切にする雰囲気作りに努め、家庭学習の習慣化を図り、志望進路に対応できる学力を定着させる。	A		学習進度・理解度が開きすぎないように、早めに全体の底上げを意識する。
	生徒間、生徒と教師間の信頼感を醸成し、集団としての凝集性を高める。	主体的な学習集団を目指し、セルフスタディースペースやブライツホールの活用を促し、お互いに切磋琢磨する雰囲気の醸成に努める。	A		6 年次がお手本を示し、次の 6 年次に伝えるという意識を醸成することを忘れない。
		担任および副担任との面談に加え、主任、副主任など年次職員との面談を行い、クラスの枠にとらわれず 6 年次職員団として生徒情報の共有を図る。	A		先生方の協力により、全員で見るという体制が自然にできあがったので良かった。
	志高い進路意識の維持による進路実現を図る。	学年集会や進路講演会での講話をとおして、生徒の第一志望への意欲を維持させる。また、利他的に行動することを意識させ、集団で受験に向かう環境を作る。	A		年次集会のみならずクラス単位・授業単位での働きかけも密に行う。
		LHR や総合的な学習の時間においては、将来への目標確認を行うことで、自らのキャリア観を意識させ、課外学習においては、質の高い学力の向上を図る。	B		大学での学びに傾注し将来の職業観までを見通した指導は難しかったが職業者講演会を行えたのは大きい。
	最上級生としての自覚により、下級生に範を垂れる。	年度前半の学校行事や部活動に悔いなく取り組ませることで、最上級生としてのリーダーシップを発揮させる。	A		行事や部活をやり切ることで、学習への意識の切り替えを行いやすくなる。
		縦割り活動をとおして、最上級生としての振る舞いを自覚させることで、並木中等の学風をつくる覚悟を促す。	A		多くの生徒が自然にそのような行動を取れていた。前期生との交流は少なかったかもしれない。
14 国語科	基本的な学習習慣の定着を図る。	学習ガイダンスを重視し、こまめに行うことで、学習の見通しを持たせ、計画的に学習しようとする態度を育てると共に、予習・復習の学習習慣を身につけさせる。	B	A	学習ガイダンスを年度始めだけでなく、試験前や行事後等、効果的に行う必要がある。
		単元ごとに到達目標を提示し、段階に合わせた授業計画と評価計画を提示する。	A		
	読解指導の深化を図る。	論理的文章・文学的文章の読解法について解説する中で、芸術論や科学論等幅広い分野の文章を客観的に読解できる力を育成する。	A		新課程に対応し、論理的思考力の育成を前期課程から継続的に積み上げていく。TO 学習での異学年間の交

別紙様式 2 (中等)

		AL型授業展開をすることにより、他者との関わりの中での学び合いの機会を設けることで、読解力の向上を目指す。	A		流は生徒の意欲向上につながるため、今後も実施していきたい。
	「書くこと」の指導を徹底する。	「読むこと」や「聞くこと」と関連させながら、ノート指導を基本とし、書くことを通して思考をまとめる方法を学ばせるようにする。	A		発達段階に合わせ、書くことを通して思考を深め、自己を表現するだけでなく、他者と協働的に学ぶ機会としていく。
		各年次に合わせた添削指導を行うことにより、論理的な文章表現力の向上を図る。	B		
	「聞く」態度の育成と適切な話し方を育成する。	正しく内容を理解するために、状況に応じて「聞く」、「聴く」、「訊く」の3種類の「きく」を使い分けられる生徒を育てる。メモを活用した聞き方についても指導を行う。	A		発達段階に合わせ、書くことを通して思考を深め、自己を表現するだけでなく、他者と協働的に学ぶ機会としていく。
		場と内容に応じ、聞き手を意識した「話し方」を工夫しようとする態度を育てる。	B		
	研修機会の充実を図る。	研修会等に積極的に参加して、授業作りの参考になる情報を集めて活用する。	A		共通テスト・大学入試問題を全員で解き、受験指導のあり方を共有する機会を多く持つ。
		定期的な教科会を開くと共に、互見授業を行うことで年次進行に合わせた授業法の研究を行い、新たな指導法の構築を図る。	A		
		他教科の授業を積極的に参観し、指導法の工夫を取り入れる。	A		
	15 社会科	シラバスを活用し、観点別学習状況評価を円滑に実施すると共に、各年次での学習目標を明確に提示した上で実践を行う。	A		特に「主体的に学習に取り組む態度」を中心として、評価方法を検討する。
		6年間を見通した教科指導体制を構築すると共に、各時期において身につけるべき能力を明確にして授業実践を行う。 生徒の発達段階に応じた学習内容と方法を検討し、実践に生かす。 ・基礎期（中1～2） 課題を追究・解決する活動を重視する。 ・充実期（中3～4） 社会的事象を地理・歴史・公民分野の観点から多面的・多角的に考察し、その意義や特色、課題をとらえる。 ・発展期（中5～6） 進路実現に必要な学力を養成する。 多様な進路希望に対応できる科目選択の在り方を研究する。	A		教員間の情報交換を密にして、基礎気から充実期、充実期から発展期へと学習の円滑な接続を図る。

別紙様式 2 (中等)

	生徒主体の授業の展開を常に意識し、学習意欲を喚起するための指導・評価の工夫と改善を図る。	「アクティブ・ラーニング」を積極的に取り入れた授業を実践する。 ・教科会での話し合いを生かしながら主体的な学びにつなげられるような学習課題の設定や発問の工夫を継続する。 ・ICTを積極的に活用することで、課題探究に対する意欲を高めると共に、思考力や表現力の育成を図る。 ・R80を活用して、自身の考えを論理的に記述したり表現したりするなど、言語活動の充実を図る。 ・TO学習やクロスカリキュラム学習などを取り入れ、学年や教科・科目の枠を越えて学ぶことで豊かな人間性を育む。	A		さまざまな教育方法を用いて、主体的・対話的で深い学びの実現に継続して取り組む。
		基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける取組 ・課題提出や小テスト、家庭学習を充実させることよりの習得を図る。 ・課外授業や添削活動・模擬試験を有効活用する。	B		授業を核として、各個人の課題に応じた個別最適な学び（家庭学習など）を実現できるように取り組む。
16 数学科	基礎・基本の定着とともに、論理力を高め、応用力を育成する。	生徒が考えればわかる、やれば解けると思えるように、アクティブ・ラーニングを踏まえた授業展開やICTを活用した説明方法を工夫する。	A	A	例題提示の仕方や発問内容を工夫する。
		定期的に課題を与え、家庭学習を充実させ、基礎・基本の定着を図る。	B		T0学習を行う機会を増やす。
		定期テスト、実力テストの問題検討に十分時間をとり、基礎・基本の定着、論理力、応用力の育成までを目的とした問題を作成し、出題する。	A		年次ごとに課題を精選し、小テストを実施する。
		生徒の学力に応じて学習内容を精選し、深化的・発展的な内容の学習も行う。	A		年次担当者間で意見交換の時間を十分に確保する。
		SSHの取り組みを踏まえ、他教科と協力して教科横断型の授業などの数学的活動の充実を図り、探究力・論理力の育成を目指す。	A		学習進度に応じて入試問題の提示やその添削などを行う。
	学習意欲を喚起する指導を工夫する。	課題や課題提示の仕方を工夫し、生徒たちの知的好奇心を喚起する。	B		クロスカリキュラム授業の計画と開発する。

別紙様式 2 (中等)

	生徒の能力差をふまえ、個に応じた指導を充実する。	I C Tを積極的に活用し、数学的な思考力・表現力の育成を目指す。	A		視覚教材の利用を積極的に行う。
		きめ細かな指導をするため、習熟度別学習・少人数学習を工夫改善する。	A		教員の ICT スキルアップを図る。
		生徒の実態を把握し、個に応じた助言・指導が行えるようにする。	A		少人数、習熟度の授業を実施する。
		生徒の実態を把握し、個に応じた助言・指導が行えるようにする。	A		課外や追試、補習授業を実施する。
17 理科	基礎力の定着、学力の向上を図る。	オリジナルプリントや小テストなどを活用して、時間を効率的に使い、演習時間などを多くとり、基礎学力の徹底を図る。	A	A	知識問題を落としてしまっている生徒のフォロー実施
		アクティブ・ラーニングや I C T活用、T O学習等により生徒の主体的学習態度の育成を図る。	A		課題解決型の授業の拡充
	S S H第 3 期目の推進及び第 4 期目に向けた、つくばという立地を生かした授業研究の充実を図る。	つくばの研究所や施設を利用した地域との連携、筑波大学などとの高大連携により、生徒の探究力・論理力の育成を図る。	A		連携による学びの深化
		I C Tや外部講師を活用した出前授業等を研究する。	A		カリキュラムに応じた内容の採用
	6 年間の系統的なカリキュラムを実践・修正する。	S S Hで開発してきた S S 科目により、高校教科書の一部を先取りして学習し、スパイラルをいかしたカリキュラムを実践し、前期から後期への接続の体系化を図る。	A		学習進度・習熟度に応じて入試問題の提示やその添削などを行う
		同じ科目を教える教科担当同士が密に連絡を取り合い、スムーズに接続できるようにする。	A		分野ごとの連携強化
	生徒の学力を向上させ、探究の過程を学ぶ効果的な学習法・指導法を開発する。	アクティブ・ラーニングや I C T、T O学習等を取り入れた授業を相互に参観し、その指導法を教科会で共有することにより指導力の向上を図る。	B		定期的な実施
18	総合的なコミュニケーション	言語の使用場面を考え、4 技能のバランスのとれた言語活動を行い、オーセンティ	A	A	4 技能のバランスに配慮する。

別紙様式 2 (中等)

英語科	能力を育成する。	ックな題材や視聴覚教材を取り入れた授業を展開する。			
		授業導入時や展開時における日常会話や音声表現活動（自己表現活動）を実施する。	A		実践的なコミュニケーションを意識する。
	基本的な英語力を構築する。	自主学習ノートの定期的な提出やこまめな小テストの実施・評価と共に、効果的に生徒へフィードバックする。	A		生徒に応じたフィードバックや支援により、よりよい英語学習へとつなげる。
		辞書の活用を奨励し、語彙を増やすことを目的とした諸活動を実施する。	A		電子辞書や辞書アプリの使用による効果をそれぞれ検証。
	英語を用いた言語活動を積極的に行える力を育成する。	プレゼンテーションやディベート活動といった発展的な言語活動を通して、自分の意見をきちんと英語で表現できる力を養う。	A		・活動をより効果的なものに。
		教科書だけでなく様々な補助資料を用いて異文化理解を進める。	A		・前期課程から後期課程へのつながりを意識。
	国際的な視野を広げる言語活動を構築する。	ALT や留学生とのコミュニケーション活動を通して、様々な考えに触れる機会を設ける。	A		教材の選定・充実。
		インタラクティブフォーラムやスピーチコンテストなどに積極的に参加し、意欲的に言語活動に取り組む機会を設ける。	B		3 人の ALT のより効果的な活用方法を研究。
	6 年間を見通した英語科としての指導形態を確立し、発展させる。	教科会や「ちょっと見週間」等を通して、各年次における授業の検証と継承を行い、並木英語科スタンダードを確立・発展させていく。	A		積極的な大会参加を促し、より高度な英語力を育成する機会を設ける。
		ディベート授業研究発表会の実施や公開授業等を通して、本校での授業形態を外部に向けても発信し、県内の英語教育のリーダー的役割を担っていく。	A		授業や課題・課外を含む並木の英語教育の検証と更なる発展。
19 芸術科（音楽）	音楽表現における基礎的能力の向上を図る。	表現活動に必要な知識と技能の定着を図る。	A	A	今後も、授業冒頭に発声練習を行う等、単元に必要な基礎技能を養えるような活動を取り入れる。
		反復練習を重視し、表現に必要な技能や能力を養う。	A		上記に関連し、グループ練習による反復練習が十分に行えるように計画を行っていく。
	幅広い表現活動を充実する。	グループ活動・全体共有の時間を効果的に設定し、表現の多様性を認め尊重し、自らの表現に生かす能力を養う。	A		今後も、表現することの多様性を認識するために、単元毎の最終回に授業内発表会を設定する。

別紙様式 2 (中等)

	ポイントを押さえた鑑賞教育を充実する。	共通事項や歴史的背景など、幅広い切り口から音楽を知覚する能力を養う。	B		レジュメや教科書等の情報から、さらに歴史的背景を生徒が認識できるように ICT 機器を効果的に用いる。
		音楽の諸要素と、それが何を表現しているのか考え、表現する能力を養う。	A		今後も、各単元のキーワードとなる諸要素を提示し、何に注目して干渉したら良いかを生徒に分かりやすくする。
	創作活動を充実する。	基礎知識を用いながら意図をもって創作を行い、発表する活動を行う。	A		歌唱やリコーダーなどを用いて、生徒自身が好む音の響きを生徒自身が選び、残せるような活動を取り入れていく。
20 芸術科 (美術)	基本的な美術の能力を育成する。	体験活動を充実させ、美術の基礎知識を身につける。	A	A	全員がよりわかりやすい導入の仕方を工夫する
		色彩の効果を考えて構想を練り、材料や用具の生かし方を考え、工夫してあらわすことを意識づける。	B		色彩の効果を感覚的に理解し習得できるような課題設定を
	柔軟な表現活動を育成する。	豊富な知識や表現方法を能動的に活用する喜びを養う。	A		それぞれの年次に合わせた課題設定の工夫
		自他の価値観を認め、内面的なイメージを豊かに表現する力を持って表現活動する。	A		鑑賞の授業の ICT 活用
	鑑賞活動の充実を図る。	自国の美術文化の特徴を理解し、優れた伝統美術に関心を持つ。	B		伝統美術に関する課題設定
		作品や作家の言葉から美術の多様性に気づき、自分の表現に生かそうとする態度を養う。	A		作品の完成後の指導 モノづくりとはというところを考えさせる機会設定
	美的体験を日常生活に生かす。	実生活に活用できるような、情報やイメージを効果的に伝えるデザインする力を育てる。	A		学校の中で活用できるデザイン課題の提案
		絵画や彫刻・工芸などを暮らしに役立てる感覚を身につける。	A		生徒それぞれが身近に感じるものから構想を練れるような指導を
21 保健体育科	体力と精神の調和的発達を図る。	学習活動への積極的な参加を通して体力の向上と精神面での成熟をめざす。	A	A	ICT機器の活用や実習により、生徒の能動的な学習に結び付ける。体力テスト上位者を表彰。
		体づくりのための効果的な運動を実践する。	A		体づくり運動で体力を高める運動の取り組み強化と、各種目の準備運動

別紙様式 2 (中等)

					時に補強運動の導入
		自己の課題に応じた運動を実践する能力を養う。	A		体力テストの結果を基に、自己の状況を把握させる。
	一人一人が豊かなスポーツライフを実践できるようにする。	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	A		個々の能力に応じた運動で楽しめるルール作り
		スポーツに関する知識を身につけ、「するスポーツ」だけでなく「見る」「支える」ことの意義や楽しさを体験する。	A		前期生から多くの種目を経験させ、指導も教員の専門種目を生かした担当制を導入。後期生（5．6年次）での種目選択。
		様々なスポーツのルールを理解させる。	A		段階的な指導を継続し、ルールの定着を図る。
	スポーツマンシップを育成し人間力を向上させる。	規律ある行動を繰り返し行う。	A		4月の授業時に全学年、集団行動を徹底して指導し年度のスタートをきる。
		あいさつを励行する。	A		授業開始・終了、ゲーム開始・終了時における挨拶の徹底
		マナー、ルールを尊重することを常に意識させる。	A		常に声かけを行い、フェアプレー精神を常に意識させる。
	生涯を通じて健康に留意しながら安全に過ごすための、バックボーンとなる知識や考え方を習得させる。	心身の発達と心の健康について探究する。	A		心身関連の理解
		健康と環境、障害の防止について探究する。	A		健康を保つためには、多面的に環境を整備していくことが大切であることを理解させる。
		健康な生活と病気の予防について探究する。	A		各自の生活習慣や食習慣を改善し、規則正しい生活習慣を身に付けさせる。
22 技術・家庭科 における技術 分野	科学的な理解と技術の習得を図る。	図や表を用いて、他者に説明する活動を通して、知識の定着を図る。	A	A	他者の説明を理解して、質問する力を付けていきたい。
		知識で得たものを実践、応用することで、技能の習得を図る。	A		知識・技能を踏まえた実践を継続していく。

別紙様式 2 (中等)

	思考力・判断力・表現力等を育成する。	生活の中で問題を見つけ、論理的に考えて解決まで導けるよう授業を展開する。	A		課題を見つけ、解決策を考え、他者へ伝えることで、理論的に考えることを継続していく。
		10年後、20年後の未来を意識した授業を展開する。	A		Society5.0 に焦点を当て、未来を意識した授業を促していきたい。
	学び向かう人間性を喚起する 学習指導を充実する。	グループ活動を取り入れた教え合い・伝え合い授業展開から、協働的な学びを行う。	A		製作やプレゼンテーションの作成において、協働的な学びを継続していく。
		実習や改題解決的な学習を取り入れ、最後までやり遂げようとする主体的な学びを行う。	A		課題に対して、粘り強く取り組むだけでなく、学びを調整しながら活動できるように努める。
23 家庭科	生徒の学習意欲を喚起する。	生徒の興味・関心に応じ、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する。	A	A	スライド等の工夫や視聴覚教材を効果的に取り入れ生徒の興味関心が持てるように工夫してきたい。
		実験や実習を効果的に行い、体験的に学べるようにする。	B		短時間でできる実験や実習を工夫し授業に取り入れていく。
		グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	A		コロナ禍で実施できる活動について工夫し、取り入れて実施することができた。
	科学的な理解と技術の習得を図る。	他教科との関連を図りつつ、生活を科学的にとらえる授業を展開する。	B		さらに研修を深め、他教科との関連を意識して授業を実施する。
		基礎的・基本的な技術を習得できるような実習を行う。	A		コロナ禍で実施できる実習について、更に工夫していく。
	生活の場での実践力を育成する。	生活の中で、学んだことを生かす態度を育てる。	A		SDGs と学習内容を関連付けた授業を展開することで学習した内容を生活の中で生かす態度を育てる。
24 情報科	ICT活用及びコミュニケーション能力を育成する。	実習の中で基本的なビジネス用ソフトウェアを利用する。	A	A	現行通りで問題なし。
		情報の検索、加工、発信という基本的なICT活用プロセスを扱う。	A		現行通りで問題なし。
		グループワークや他とのコミュニケーションを重視した実習を行う。	B		よりよい演習の方法の検討
	情報倫理を育成する。	知的財産権について、いろいろな場面で扱う。	B		情報モラルや法律などに触れる機会を増やす

別紙様式 2 (中等)

		情報倫理について、自分で判断できるように指導する。	A		上記
		情報モラルを重視した指導を行う。	B		上記
	他教科や外部組織との連携を図る。	学校行事・課題探究とリンクした実習を取り入れる。	A		現行通りで問題なし。
		他教科や外部組織との連携をいろいろな場面で試みる。	A		現行通りで問題なし。
25 道徳	望ましい生活態度を身につけ、互いの個性を尊重し、自主的・自律的に行動しようとする態度を育成する。	生徒の実態や学校行事、他教科との関連を把握した上でその実態に応じた題材を提示することに努める。	A	A	教科書を基本とし、生徒の実態に合わせた題材を提示した。
		道徳の授業の中で考えたことが、学校生活のよりよい人間関係の構築や円滑な生活の維持に生かせることが実感できるようにする。	A		道徳の授業に全職員で取り組むローテーション道徳を行い、学校生活の様々な場面で道徳教育を生かした。
		「道徳」「道徳プラス」の授業において、学級やグループ内で意見交換や話し合いの場を設け、他者の意見を基に自己の考えを深化できるようにする。	A		I C Tを効果的に活用し、意見の共有や深化を図った。グループでの話し合いも活発に行った。
		授業で考えたことを、従前の自己の生活や考え方と比較し、今後の生き方に反映できるように振り返る場面をつくるようにする。	A		道徳ノートと I C Tを有効活用し、自己の変容を見とる場面をつくった。
26 学級活動	学校全体や、各年次、各クラスで、生徒主体の活動の促進を図る。	生徒会主催の全校集会や、生徒主体の年次集会を開催し、生徒自らが積極的に企画運営できる能力を育てる。	A	A	年間を通して生徒主体の集会を行っていく。
		学級での一人一役の実践と工夫を図る。	A		継続して実施する。
	集団や社会の一員として望ましい人間関係を構築し、よりよい生活環境を築こうとする態度や自己を生かす力を養う。	校外学習等において、生徒主体の企画・運営をする能力を育てるとともに、集団の一員として望ましい人間関係を構築できる能力を培う。	A		生徒が企画・運営する活動を積極的に行っていく。
27 総合的な学習の時間	自分の興味あることについてのテーマを設定し、そのテーマに基づいて調べ学習を展開する	「かえてツーリスト」というテーマのもと、自分の住んでいる地域を実際に歩いたり、調べたりなどして、地域再発見の機会を設け、情報収集能力や情報活用能力、プレゼンテーション能力（発表資料作成）を育成する。（1年）	A	A	「かえてツーリスト」というテーマのもと、自分の住んでいる地域を実際に歩いたり、調べたりなどして、地域再発見の機会を設け、情報収集能力や情報活用能力、プレゼンテーション能力を育成できた。

別紙様式 2 (中等)

	ることで、情報収集能力や情報活用能力、考察力、プレゼン力を育成する。	「ミニ課題探究Ⅰ」において、哲学を実施し、日常に疑問をもち、その疑問に対する自分なりの考えをもち、人生の見方考え方を養う。(1年)	A		SDGsをテーマに、哲学的思考や哲学対話を取り入れ、探究活動を行うことができた。
	テーマを追究し、課題を解決する課程において、課題発見能力、課題解決能力を育成する。	ミニ課題探究Ⅱにおいて、「クエストエデュケーション」を行い、企業から出されたテーマについて探究活動を行う。この活動において、探究の過程の手法を学び、分析力や表現力、論理力を育成する。(2年)	A		「クエストエデュケーション」で探究活動を行い、各企業からのミッションについて考え、自分たちの考えを表現することで、分析力や表現力、論理力を育成することができた。
	また、自分の将来の夢や職業を意識し、進路実現にむけて行動する力を育成する。	「キzzaニアかえで〜将来の職業について考えよう〜」というテーマのもと、自分に適した職業を知る活動や職業調べを通して、自分の将来の夢や希望を意識し、実現にむけて行動する力を育成する。(2年)	A		文化祭での取り組みや企業とのやりとりを通して、働くことや職業について理解することができた。今後は、自分の将来の夢を見つけるためのサポートをしたい。
	課題研究を通して、グループで学び合う力、テーマ設定能力、データを分析・考察する力を育成する。また、自分の将来や卒業後の進路に向けて行動する力を育成する。	「かえでユニバーシティ〜卒業後の進路について考えよう〜」というテーマのもと、大学の学部・学科を調べる活動や文化祭におけるキャリアアトラクションの企画立案・実践を通して自分の将来や卒業後の進路に向けて行動する力を育成する。(3年)	A		総合的な学習の時間を通じて、仲間と楽しく協同的に「学部学科」について学ぶことができた。これを文化祭でエンターテインメントとして表現できた。
		「ミニ課題研究Ⅲ〜地域の社会問題を解決しよう〜」というテーマのもと、インタビュー、体験活動、フィールドワークやレポート作成を通して、グループで学び合う力、テーマ設定能力、データを分析・考察する力を育成する。また、広島・京都(東北地方)の研修旅行を通して地域の社会問題を見つめ、訪問都市の事例を地域の活性化に還元できるような力を培っていく。(3年)	A		平和研修の事前学習として、SDGsに関して都市に関する問題点を考えた。現在はつくば市への提言という形で、共同学習を行っている。現地に行けなくてもオンラインをうまく活用したい。
	6カ年教育における諸活動をととして、自らの生きる道を、主体性をもって選択し決断できる能力を育成する。	大学出前授業、進路講演会、文理選択説明会、大学見学会、卒業生との相談会などの進路学習を充実させ、進路に対する視野の拡張と難関大学への意識を高める。(4年)	A		実際に行くことはできなかったが、オンラインで可能な限り講演会、出前授業、卒業生によるガイダンスを行うことができた。
		道徳の授業を通して、職業観や生き方に対する意識を高める。(4年)	A		各担当者がそれぞれの視点で、職業観・生き方について考える授業を行うことができた。
		「異文化理解と自己理解」というテーマで、修学旅行と語学研修を実施し、他者を理解し、多様性を認めると共に、自己の文化を発信する力を養う。(5年)	A		国内実施となったが、実行委員を中心に短期間で企画を作り上げ、自分達の手作りの修学旅行を実現することが出来た。

別紙様式 2 (中等)

		自己の進路について、多方面から情報を集めることで具体的な進路を見いだせるような一助とし、終年次に向けて意欲の向上を図り、進路実現を目指す。(5年)	A		見学に行くことが出来ない中、多方面からの講師を招き、オンライン実施も含めて様々な機会を設けることができた。
		「進路実現と主体的な生き方の模索」というテーマで、進路情報の収集を進める一方、進路講演会などをおして、その都度自己を見つめ直す機会も設ける。(6年)	A		集会などで効果的に進路選択に関する意識を高める取り組みを行った。今年度同様の取り組みを継続したい。
		並木中等での6年間の総括をすべく、時期により作文やレポート作成を行い、振り返りと将来への展望を促す。(6年)	A		定期的に自己を振り返り、教員とコミュニケーションをとる機会を設けた。今年度は web を介して行ったが、どのような媒体でも構わないので、継続したい。

※ 評価規準: A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない